

文明開化の共同幻想について

近代日本は、共同幻想というものがはらんでいるディレンマをきわめて尖鋭な形でつきつけられたのである。前述したように、共同幻想は、集団の成員の私的幻想を吸収し、共同化して集団をまとめる機能と、集団を現実に適応させる機能との本来矛盾する二つの機能をはたさねばならないが、近代日本の場合、不本意に国際社会という新しい現実に強制的に引きずり出されたため、この新しい現実に対応するための共同幻想を、成員の私的幻想の吸収という面をなおざりにして大急ぎでつくらざるを得なかった。そのため、この文明開化の共同幻想は、日本人の内的自己をおいてきぼりした、どこかそらぞらしいものになり、日本人の国民的同一性（アイデンティティ）と統一性を保つ支えとはなり得なかった。そのため、この支えとなるような別の共同幻想が必要となった。しかし、この尊王攘夷の共同幻想は、現実への適応の面が抜けおちていた。わたしが、近代日本を精神分裂病質者だと言ったのは、決してものの譬えや比喻ではなく、このように共同幻想が、外的適応のためのものと内的統一のためのものと二つできあがり、二重底になっている精神構造、すなわち外的自己と内的自己とに分裂した精神構造こそまさに精神分裂病質者の精神構造だからである。

[岸田秀 著 『ものぐさ精神分析』\(中公文庫\) >>>](#)

国家論より引用させていただきました。

[ドラマチックリーディングの扉](#)

[『雛』 芥川龍之介 作](#)

